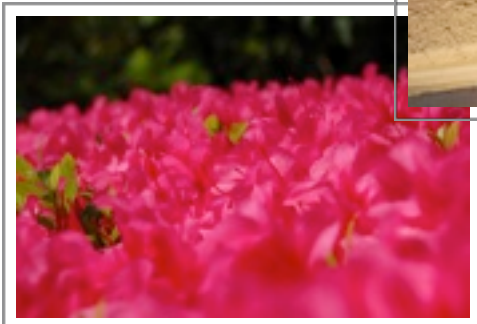




J-BILAT 月刊ニュースレター
第14号 | 2011年5月

J-BILAT Newsletter
No.14 | May 2011



J-BILAT 月刊ニュースレター 第14号 (2011年5月)

目次 (Contents)

1. 日・EU関係及び、欧州科学政策技術関連の話題

1.1 第20回 日・EU 定期首脳会議開催

1.2 原材料・資源に関するイノベーション・パートナーシップについてパブリックコメント募集

1.3 デジタルアジェンダ スコアボード

2. ニュース (News)

2.1 NEDO-FP7 共同公募によるプロジェクトの発足

過去に開催された催し

2.2 J-BILAT 第2回成功事例ワークショップ (エネルギーと物質科学及び生産技術)

今後の関連する催し

2.3 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ (情報通信)

2.4 CONCERT-Japan Stakeholders Conference

2.5 その他、関連する今後の催しのリスト

3. 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介 その14 CONSTRUMATH プロジェクト

4. 公募情報

4.1 日本からの応募が可能なFP7公募

4.2 今後の公募情報

5. プロジェクトデータベースへの登録のお願い

6. 欧州連合加盟国紹介 その9 英国



1. 日・EU関係及び、欧州科学政策技術関連の話題

1.1 第20回 日・EU 定期首脳会議開催

2011年5月28日、ブリュッセルにて第20回 日・EU 定期首脳会議が開かれ、“Kizuna（絆）”をキーワードに数々の議題について協議、欧州評議会の Van Rompuy 大統領、欧州委員会の Barroso 委員長、と菅首相により共同声明が出されました。震災や原子力発電所の事故、FTA/EPA交渉や中東・北アフリカ情勢といった話題に加え、科学・技術関連では以下の事が特筆されます。

- ❖ 日・EU 科学・技術協力協定の発効に従い、関係の強化と新たな仕組みづくりが謳われた。
- ❖ 特に、衛星利用での共同が明記された（主に欧州側が熱心だった Galileo-QZSS での協力模索が本格化する可能性がある）。
- ❖ 具体的な研究開発テーマとしては、既に共通課題として選定されている、太陽光発電・エネルギー貯蔵・二酸化炭素の吸着と貯留（CCS）でプロジェクトを立ち上げることに他に、スマートグリッド、水素・燃料電池での協力が明記された。
- ❖ 他に声明に盛り込まれたキーワードは希土類を含む資源確保、生物多様性、低炭素、EURATOMとの連携強化（ITER含む）、新たな技術の標準化での連携、人材交流など。

会議の最後に Van Rompuy 大統領がコメントを発表、その末尾を自身の俳句で締め括られました。

*The three disasters.
Storms turn into a soft wind.
A new, humane wind.*

菅首相はそれに続くコメントの中で、日本語訳「嵐去り 後に残るは 優しき心」を再度紹介。こういった人間的な触れ合いを通じ、科学・技術、イノベーションの側面でも益々の日欧連携が進むことを期待したいと思います。余談ですが、今回の首脳会議に菅首相は胸ポケットに起き上がり小法師を忍ばせておられたそうです。

定期首長会議に関するの情報が良くまとまっているのは以下の欧州評議会のサイトです。

<http://www.european-council.europa.eu/the-president/summits-with-third-countries.aspx>

声明の日本語への仮訳は以下の外務省のサイトからご覧になれます。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/shuno20/index.html>

1.2 原材料・資源に関するイノベーション・パートナーシップについてパブリックコメント募集

原材料・資源に関するイノベーションパートナーシップに関し、欧州委員会の企業・産業総局がパブリックコメントを募集中です。これは、第11号（2011年2月）のニュースレターでもご紹介をした欧州連合の新成長戦略 EU2020 とその中のフラッグシップ・イニシアチブの一つイノベーション連合に関連し、今後のパートナーシップの目的や焦点を当てるべき活動について、利害関係者の意見を聴くためのもので、日本を含む欧州域外からの意見も歓迎されています。

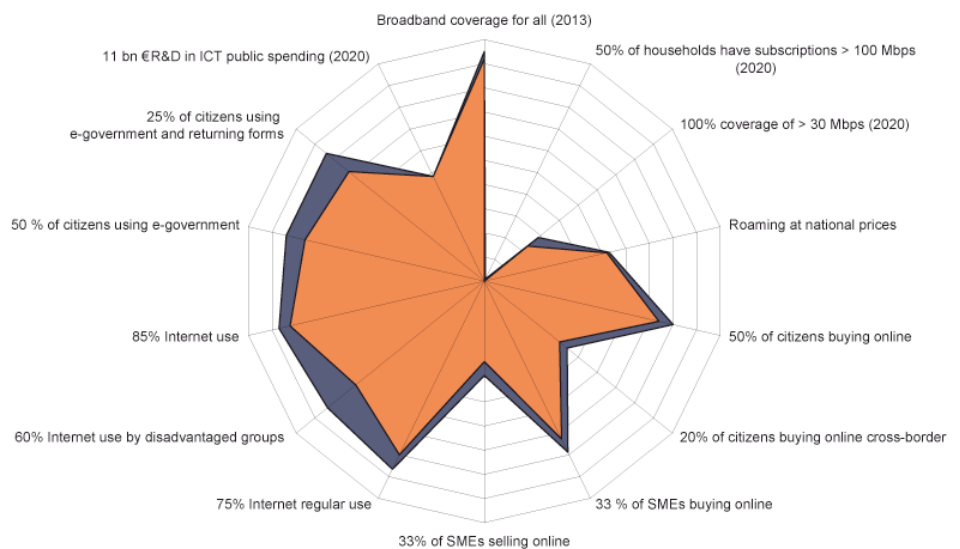
背景となる書類のダウンロードやオンラインアンケートは、以下のサイトを御覧ください。

http://ec.europa.eu/enterprise/policies/raw-materials/public-consultation-ip/index_en.htm

1.3 デジタルアジェンダ スコアボード

上と同じくEU2020のフラッグシップ・イニシアチブの一つ、デジタル基本方針（デジタルアジェンダ）のスコアボードが2011年5月31日に発表されました。例えば2015年迄に域内の75%の人が日常的にインターネットを使うこと、2020年までに50%の家庭で100 Mbps以上のネット環境が利用されること、などの13の具体的な目標や国ごとの取組みに関し、2010年5月と2011年5月時点での比較をしており、政策目標の達成度、進捗状況を具体的に示しています。

How the EU scores on the Digital Agenda targets



Orange = 2010, dark blue = 2011. Labels refer to targets; outline is 100% achievement; targets refer to 2015 unless otherwise stated. 20% reduction in energy use not included.

以下のサイトにて、デジタル基本方針に関する情報や今回のスコアボードの結果のダウンロード等が可能です。

http://ec.europa.eu/information_society/digital-agenda/scoreboard/

2. ニュース (News)

2.1 NEDO-FP7 共同公募によるプロジェクトの発足

2010年7月に、欧州委員会のFP7と日本の助成機関の共同助成の第一弾として、太陽光発電分野での共同公募が出されましたが、2011年5月31日、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）及び駐日欧州連合代表部によりその結果が発表され、6月1日より該当分野での日欧共同研究プロジェクトが一つ立ち上がることが明らかになりました。セル変換効率45%以上を目指した集光型太陽電池の開発を目指し、日本側は豊田工大を代表とする5機関、欧州側はマドリッド工科大をコーディネーターとする7機関がそれぞれコンソーシアムを立ち上げます。期間は2014年までの4年間で、日本側には6億5千万円、欧州側には500万ユーロ（約6億円）の予算がつけられています。共同公募に基づく初めてのプロジェクトとして、大いに成果を期待したいと思います。

プレスリリースは以下からご覧になれます。

http://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_100018.html
(NEDO)

<http://www.deljpn.ec.europa.eu/modules/media/news/2011/110531.html>
(駐日欧州連合代表部)

過去に開催された催し

2.2 J-BILAT 第2回成功事例ワークショップ（エネルギーと物質科学及び生産技術）

2011年5月25日、九州大学及びEUIJ九州との共催により、アクロス福岡（福岡市）にて第2回成功事例ワークショップ

「エネルギーと物質科学における日欧研究開発協力」を開催いたしました。当日は、東京や大阪の企業の方、福岡県や福岡市の科学・技術振興関連の団体、外国人研究者なども含め、41名の会となりました。今回は、以下のキーワードに沿い、ご講演及び事例報告を頂きました。



2011年5月25日
アクロス福岡 会議室 606 (福岡市)
14:00 ~ 18:00 (受付開始13:30)
共催 日欧産業協力センター/九州大学/EUIJ 九州
URL: http://www.j-bilat.eu/seminar/BPSW_2

J-BILAT ワークショップ
「エネルギーと物質科学における日欧研究開発協力」

「欧州との連携」
「低炭素化」
「新エネルギー・新素材」
「省エネルギー」
「生産技術」

J-BILAT Workshop
EU-Japan Collaborations in
Energy and Material Sciences
25 May 2011 (Wed), 2-6 pm
(Registration starts at 13:30)
A-Cross Fukuoka, Conference
Room #606 (Fukuoka)
http://www.j-bilat.eu/seminar/BPSW_2

オンライン登録 <http://www.j-bilat.eu/registration-seminar>
又は、氏名（ふりがな及びアルファベット）、所属（町名・番地）、役職（役名・系名）、電話番号、メールアドレス、研修会への参加の有無をご記入の上、以下の担当までお申込み下さい。
プロジェクトマネージャー 市岡 利康
E-mail: toriyasu.chikaharu@ipc.kyushu-u.ac.jp

欧州との連携：「EUIJ九州が目指す日欧の協働」

EUインスティテュート・イン・ジャパン九州 代表、九州大学大学院法学研究院 八谷 まち子 教授

新エネルギー：「国の新エネルギー政策と九州における取組について」

九州経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長 赤時 孝治 氏

省エネルギー：「2030年に向けたパワーエレクトロニクスの新しい役割」

産業技術総合研究所 エネルギー技術研究部門 大橋 弘通 博士

低炭素化・新素材：「燃料電池開発における日欧連携の重要性」

九州大学工学研究院 石原 達己 教授

生産技術：IMS2020 プロジェクト事例報告

慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 中野 冠 教授

これに加え、J-BILAT による FP7 関連プログラムの詳細な仕組みとマリーキュリープログラムや欧州研究評議会（ERC）による先端研究助成の紹介も行いました。講演に引き続き、J-BILAT コーディネーターのファブリツィオ・ムラの司会により、大橋氏、石原氏、中野氏の3者によるパネルディスカッションを行い、率直な講師の方々のご意見に会場からの質問も交え、今後の日欧連携強化についての活発な意見交換がなされました。

また、ワークショップ後の懇親会では、更に打ち解けた雰囲気の中、引き続きの情報交換やネットワークワークがなされました。



受付にて



EUIJ九州 八谷代表



パネルディスカッション



会場の様子 1



活発な質疑応答



会場の様子 2

当日のプログラム詳細や講演資料（公開可能版）は下記ウェブサイトに掲載しています。

http://www.j-bilat.eu/seminar/BPSW_2

今後の関連する催し

2.3 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ（情報通信）

延期をしておりました第一回目のワークショップですが、プログラムに多少の変更を加えた上、下記の通り6月23日に東京にて開催致します。事例の多い情報通信（ICT）分野での日欧間の研究開発協力をとりあげ、FP7該当分野の詳細な仕組みと事例報告に加えて参加者を交えた議論により連携強化の可能性を探ります。また、関連分野で使えるマリーキュリープログラムや欧州研究評議会（ERC）による助成の紹介も行います。対象となる方々の幅広いご参加を歓迎いたします。

日時：2011年6月23日（木） 13:30 ～ 17:15 (受付開始13:00)

会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京）6階中ホール2
交通案内等の詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nomura-nihonbashi.com/conference/index.html>

後援：EURASIAPAC プロジェクト

対象：公的研究機関及び企業の研究者、研究担当マネージャー、助成団体関係者等50名程度

使用言語：日本語または英語、同時通訳有り

参加費及び参加登録：

参加は無料ですが、事前登録をお願いしています。オンライン登録

<http://www.j-bilat.eu/registration-seminar>

もしくは氏名（ふりがな及びアルファベット）、所属（和名・英名）、役職（和名・英名）、電話番号、メールアドレス、レセプション参加の有無をご明記の上、以下の担当者までお申込み下さい。当初の予定の3月15日のためにお申し込みを頂いた方も、今回のご参加を希望される場合、お手数ですが再度のご登録をお願いいたします。なお、聴衆として対象とする以外の方からのお申し込みはお断りする場合がございます。主催者からの返信をもって登録完了とし、当日空きがある場合には会場での登録も可能です。

（プロジェクトマネージャー 市岡利康、E-mail：toshiyasu.ichioka@eu-japan.gr.jp）

現時点でのプログラムは次ページの通りです。最新版は以下のウェブサイトに随時、掲載します。

http://www.j-bilat.eu/seminar/BPSW_1

時間 言語	概要
13:30-13:40	開会の挨拶
日/英	日欧産業協力センター 事務局長 塚本 弘
13:40-14:05	FP7情報通信分野に於ける日・EU協力のあり方と人材育成 (仮題)
日/英	政策研究大学院大学 永野 博 教授
14:05-14:40	FP7 ICT 分野及び関連するプログラム(People, Ideas)の仕組み、日本からの参加について
日	日欧産業協力センター J-BILAT担当プロジェクトマネージャー 市岡 利康
14:40-15:10	お茶を飲みながらの議論とネットワーキング
15:10-17:10 日/英	<p>FP7 ICT プロジェクトへの参加事例報告と今後の参加促進へ向けての議論</p> <p>座長 ファブリツィオ・ムラ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 趣旨説明及びプロジェクト紹介 (10 min.) 市岡 利康 2 FP7 ICT プロジェクト参加事例報告 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 KYOTO (10 min.) 豊橋技術科学大学 井佐原 均 教授 2.2 FUTON (10 min.) 情報通信研究機構 次世代ネットワーク研究センター 先端ICTデバイスグループ 川西 哲也 氏 2.3 ROBOSOM (10 min.) 早稲田大学 理工学術院 高西 淳夫 教授 3 FP7 ICT 分野での日欧連携強化：EURASIAPAC プロジェクト (10 min.) 4 既に日本にいる欧州研究者をどう活かすか： EURAXESS Links Japan (10 min.) リー ウルガー 氏、EURAXESS Links Japan 5 Q&A (10 min.) 6 議論 (50 min.) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 研究開発、イノベーションに於ける日欧連携のメリットとハードル ◆ 技術の標準化や知財の扱い等に関する懸案事項と連携強化のための方策 ◆ 欧州プロジェクトへの参加の経緯、法務や経理上の苦勞と克服法 ◆ 人材交流やキャリア形成支援の効果、期待される枠組、日本在住の欧州研究者活用
17:10-17:15	結論及び結辞
日/英	日欧産業協力センター 次長、J-BILAT プロジェクト代表 ファブリツィオ・ムラ
18:00-20:00	ネットワーキングのための懇親会

2.4 CONCERT-Japan Stakeholders Conference

これまでご紹介をしている J-BILAT と補完関係にある CONCERT-Japan プロジェクトが日・EU 科学・技術、イノベーションでの協力に関する会議を開催します。2011年1月に発足したプロジェクトのこれまでの成果や日欧の二国間・多国間協力の事例紹介、優先度の高いと思われる領域の議論などがなされます。

開催日： 2011年7月26日

会場： Collegium Budapest、ブダペスト（ハンガリー）

詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.colbud.hu/current/concert/>

2.5 その他、関連する今後の催しのリスト

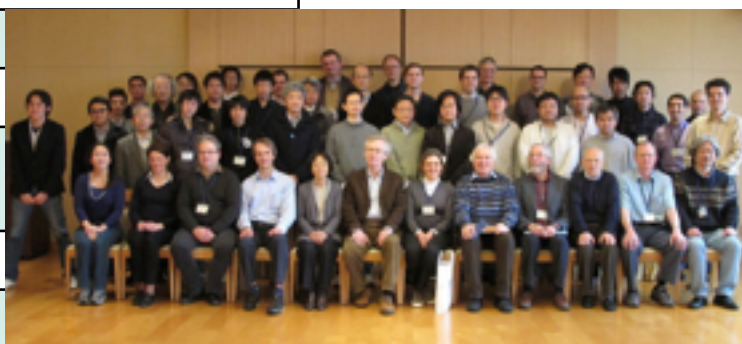
主にヨーロッパで今後開催される FP7 関連イベントを出来る限りまとめています。

催し名	日付	場所	内容、ウェブサイト等
FP7 Health - Open Information Day & Brokerage event	9-10 June 2011	Brussels, Belgium	http://ec.europa.eu/research/health/events-05_en.html 医療分野 FP7 プロジェクトと 2012 年助成
The 3rd Annual Internet of Things Europe 2011 Conference,	28-29 June 2011	Brussels, Belgium	http://www.eu-ems.com/summary.asp?event_id=70&page_id=495
FP7 Energy Research Information Day – 2012 calls	7 July 2011	Brussels, Belgium	http://ec.europa.eu/research/conferences/2011/energy_infoday/infoday_energy_en.htm FP7 エネルギー分野の 2012 年助成
Innovation for stronger regions: opportunities in FP7	14 July 2011	Brussels, Belgium	http://ec.europa.eu/research/index.cfm?pg=conferences&eventcode=2C69626C-C60E-11DC-BBFDE7D4E58DE335
Internet and societies	7-9 September 2011	Brussels, Belgium	http://paradiso-fp7.eu/events/2011-conference/
Challenge Social Innovation Innovating innovation by research – 100 years after Schumpeter	19-21 September 2011	Vienna, Austria	http://www.socialinnovation2011.eu/ 2012 年助成に関する、社会科学・人文分野のネットワーキングイベントも開催
The 3rd European Conference on Corporate R&D (CONCORD-2011)	6 October 2011	Sevilla, Spain	http://iri.jrc.ec.europa.eu/concord-2011/index.html
The Second International Workshop on Web Science and Information Exchange in the Medical Web	28 October 2011	Glasgow, UK	http://www.meco-project.eu/medex2011

3. 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介 その14

CONSTRUMATH プロジェクト

プロジェクト名	Constructive Mathematics: Proof and Computation
短縮名	CONSTRUMATH
契約番号	230822
プロジェクト開始日	2009年1月1日
期間	24 ヶ月
助成金	57,600ユーロ
ウェブサイト	http://www.mathematik.uni-muenchen.de/~jberger/construmath.html



第 14 回は、People プログラム（マリーキュリーアクション）の IRSES タイプのプロジェクト、CONSTRUMATH (Constructive Mathematics: Proof and Computation)（構成的数学：証明と計算）を取り上げます。コーディネータはドイツのミュンヘン大学（Ludwig-Maximilians-Universitaet Muenchen）で、全参加機関は、以下の通りでした。

参加機関名	国名
Department of Mathematics, Ludwig-Maximilians-Universitaet Muenchen ミュンヘン大学数学科	ドイツ
Department of Mathematics, Uppsala University ウプサラ大学数学科	スウェーデン
Department of Pure and Applied Mathematics, University of Padova パドヴァ大学数学科	イタリア
School of Information Science, Japan Advanced Institute of Science and Technology 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科	日本
Department of Mathematics and Statistics, University of Canterbury カンタベリー大学 数学・統計学科	ニュージーランド

日本からの参加者は北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科の石原 哉 教授のグループでした。以下、ご寄稿いただいた文章を掲載いたします。

構成的数学は、Brouwerの直観主義数学に始まり、Bishopの構成的数学など、様々な哲学的背景に基づいて研究が続けられている、数理論理学と数学基礎論に属する数学の1分野です。構成的数学では、通常の論理（古典論理）より弱い直観主義論理を用いることにより、①数学的对象はすべて計算可能であるという強い仮定をおいても矛盾せず、②証明とプログラムの間に自然な対応があるため、証明からプログラムを自動合成することが可能です。本プロジェクトは、このような計算論的解釈を許容する構成的数学において、解析学、代数学、位相、逆数学、プログラム合成などの課題に取り組むことを目的としています。

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）グループは、10年以上にわたり本プロジェクト参加グループと、主に欧州で開催される研究集会の会場で、あるいは相互に訪問し、同じ場所で集中して意見交換・討論を行うことにより、共同研究を実施してきました。数学研究のため特別な研究施設・設備や研究環境は必要とせず、むしろIRSESタイプの交流プロジェクトが重要であり、今回プロジェクトの立ち上げに参加しました。JAISTグループは、主に構成的逆数学の研究を担うことになりました。

プロジェクトでは、Trimesterとして2009年10月から2010年1月まで、ミュンヘン大学（LMU）およびウプサラ大学（UU）で、研究課題に関してセミナーと集中講義を行いました。2010年6月にドイツでプロジェクト・ワークショップを開催し、また欧州の研究者の訪問に合わせて、2010年3月に金沢でワークショップを、2010年12月にクライストチャーチでワークショップを、それぞれ開催しました。

プロジェクト期間中、LMUグループからのべ5人、UUグループから2人、パドヴァ大学（UP）グループから2人、カンタベリー大学（UC）グループから1人の教員、研究員、大学院生が、JAISTグループを訪問し、共同研究、集中講義、およびセミナーあるいはワークショップでの講演を行いました。また、JAISTグループからは、TrimesterにUUグループを訪問し共同研究と集中講義、プロジェクト・ワークショップへの参加、およびLMUグループを訪問し共同研究、を行いました。

このように、本プロジェクトにより、同じ場所で集中して意見交換・討論する機会が増え、明らかに共同研究が活性化しています。その成果はいくつかの共著論文として発表あるいは発表予定です。さらに、議論を通して、今後の新たな研究課題も芽吹いてきました。本プロジェクトにより構築された国際研究教育ネットワークが今後も維持・強化され、共同研究のより一層の発展を期待しています。

IRSESタイプの交流プロジェクトの場合、マッチング・ファンドとして必要なのは、日本の研究者が欧州の研究グループを訪問するための旅費のみです。今回は、JAISTグループは少人数なこともあり、学内外の資金を旅費として活用しましたが、今後IRSESタイプの交流プロジェクトに対応したマッチング・ファンドの制度化を期待しています。また、様々な事務手続きに関して、前例がなく、また大学間での情報の共有や外部のサポートもない中の、JAIST事務局の対応に感謝します。

石原グループの詳しい研究内容につきましては、以下のリンクをご参照ください。

<http://www.jaist.ac.jp/is/labs/ishihara-lab/www/index.html>

4. 公募情報

ニュースレター発行時点での最新の情報をお送りしております。
FP7 に関する日欧共同公募は現在出されておられません。

4.1 日本からの応募が可能なFP7公募

この他に、以下のFP7の公募が利用できます（毎号随時アップデートしております）。緑色のものは、特に日本からの参加をターゲットにした部分のある公募や日本からの参加者・機関に助成金の出る可能性のあるもの、ピンクのものは前号から新たに付け加わったものです。

プログラム	公募番号	応募締切	含まれるテーマ	Comments
Cooperation	FP7-ICT-2011-C	25 September 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_14 STREP and CSA 10 April 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_13 STREP and CSA 25 October 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_12 STREP and CSA	Information and Communication Technologies	Proposals for the FET Open scheme can be submitted at any time
Ideas	ERC-2011-PoC	15 June 2011 at 17:00:00 (Brussels local time), 08 November 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	ERC, proof of concept	既に ERC 助成を受けている研究者が研究により得られた革新的技術他の実証をするための助成
People	FP7-PEOPLE-2011-CIG	6 September 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie career integration grants	Career Integration Grants 研究者がホスト機関と共に応募
People	FP7-PEOPLE-2011-IIF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie-Curie International Incoming Fellowships	日本の機関に所属する研究者が欧州に行く場合はこちらを検討
People	FP7-PEOPLE-2011-IEF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie Intra-European Fellowships	欧州の機関に所属する日本人研究者はこれを検討の事
People	FP7-PEOPLE-2011-IOF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie International Outgoing Fellowships	欧州の研究者を日本に受け入れる場合（但し、参加成は欧州研究者の派遣元機関にされる）。EU加盟国もしくはFP7関連国で5年以上研究を続ける日本人研究者も対象
JTI	FCH-JU-2011-1	18 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Fuel Cells and Hydrogen Joint Undertaking	

公募情報は、以下の participants portal に順次公開されます。

<http://ec.europa.eu/research/participants/portal/page/home>

公募の内容や応募条件、具体的な応募方法等、何かご質問やご要望がありましたら、J-BILATにお知らせくだされば、できる範囲でお答え致します。現在プロジェクトのウェブサイトのリニューアルをしており、近日中に公開の新しいサイトでは、例えば FP7 の契約関係の書類の日本語訳をいくつか、参考として提供する予定であります。

また、ご応募の後に採択された場合など、ぜひご参加に至る過程や実際のプロジェクトの様子など、体験をお寄せいただければと思います。次年度以降のセミナーやワークショップで、共有していきたいと思っております。

4.2 今後の公募情報

2012年度の年次計画と公募の多くは7月20日前後に発表がされる予定です。引き続き情報にご注目ください。

5. プロジェクトデータベースへの登録のお願い

プロジェクトに関する情報をお送りするために、データベースへの登録をお願いしております。プロジェクトウェブサイトからの登録に加え、メールやファックスにて、以下の情報をお送りいただいても結構です。

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

Registration for the project database can be done through the following website, or by sending the information listed below to the project manager.

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

- Title (Mr. Ms. Dr. Prof.)
- Surname 姓
- Name 名前
- Position 役職
- Affiliation 所属
- Mailing address 所属先住所 (optional)
- E-mail address メールアドレス
- Telephone No. 電話 (optional)
- Fax No. ファックス (optional)
- Area of interest (multiple choice from the following list:

Health; food, agriculture and biotechnology; information and communication technologies (ICT); nanosciences, nanotechnologies, materials and new production technologies; energy; environment (including climate change); transport (including aeronautics); socio-economic sciences and the humanities; security; space; other “ ”

興味のある分野（複数可）

保健・食料・農業・漁業・バイオテクノロジー・情報通信技術・ナノ科学及びナノテクノロジー・材料及び新生産技術・エネルギー（原子力を除く）・環境（気候変動を含む）・運輸（航空を含む）・社会経済科学及び人文科学・宇宙・安全・原子力・その他 「 」

6. 欧州連合加盟国紹介 その9 英国

欧州連合加盟国の特に研究開発に関し、順次簡単な紹介をしています。

漢字表記：英吉利、英国（略称 英）
面積：243,610 平方キロ
主要都市: ロンドン（首都）、バーミンガム、グラスゴー、リヴァプール、リーズ
人口：6235 万人（2009）
公用語：英語
宗教：キリスト教 72% 他
名目GDP：2259 bn USD (2010) 産業構成GDP: 農業: 0.9% 工業: 22.1% サービス業: 77.1%
科学・技術： 国全体の研究開発支出（Gross Domestic Expenditure on R&D；GERD）：GDPの1.77% (2008) 研究開発費の出所 政府 30.7% 民間 45.4%



英国の科学・技術は、2009年に統合により誕生したビジネス・イノベーション・技能省（Department for Business, Innovation and Skills (BIS)）の管轄であり、主に傘下の7つの研究評議会を通じて研究・開発・イノベーションへの助成が行なわれている。

<http://www.bis.gov.uk/>

以下の文書からは、2011年から2015年にかけての研究開発戦略と助成機関ごとの活動内容が得られる。

<http://www.bis.gov.uk/assets/biscore/science/docs/a/10-1356-allocation-of-science-and-research-funding-2011-2015.pdf>

英国での科学・技術に関する意思決定は伝統的に科学者自身によってなされるのが特徴である（Haldane Principle）。

（出典: CIA Factbook, Wikipedia, OECD他）

日本におけるFP7情報サービス事業(J-BILAT)

事業名	BILAT in Japan	省略形	J-BILAT
開始日	2010年1月1日	契約書番号	244310
期間	36 ヶ月	予算	612,090 EUR (内 FP7 助成金が500,000 EUR)

本ニュースレターに含まれるFP7関連その他の情報は得られた時点で最新のものを正確にお伝えするよう努めておりますが、意見等は関係機関の公式見解を表わすものではなく、また本文に EU の公式文書その他の日本語訳が含まれる場合にも、原典と同等の内容の正当性を保証するものではありません。本ニュースレターに関するご意見・ご要望・配信の停止等のお問い合わせは、右記の担当 市岡までお寄せ下さい。

Fabrizio Mura
プロジェクト代表
E-mail: fabrizio.mura [at] eu-japan.gr.jp
市岡 利康
プロジェクトマネジャー(J-BILAT担当)
E-mail: toshiyasu.ichioka [at] eu-japan.gr.jp
日欧産業協力センター
〒102-0082 東京都千代田区一番町13-3 ラウンドクロス一番町4階
Tel.: +81 - (0)3-3221-6161
Fax: +81 - (0)3-3221-6226



J-BILAT is on twitter

© 日欧産業協力センター
EU-Japan Centre for Industrial Cooperation
編集: 市岡利康